

新年度予算に対する評価と見解

市政クラブ

シン対策などきめ細かな施策の展開と平成十四年までにこみ半減化という至上命題の達成に全力を尽くすよう引き続き要

市政クラブは、平成十三年度鎌倉市一般会計予算外十六議案すべてに対して賛成いたしました。長引く景気低迷や度重なる減税措置がもたらした地方財政は引き続き厳しい状況にあり、本市においても、市税の伸びは一・四%の微増と見込み、平成十三年度の一般会計予算の総額は、昨年度比で一・二%の増で、額にして五百二十二億八千二百万円です。厳しい財政環境の中で私たちは活力ある安心できる社会をつくるため、次の諸点について、特に要望しました。

【財政状況と市町村合併について】本市の財政状況は、依存財源としての市債に頼らざるを得ない状況の中、平成十六年度には公債費比率のピークを迎えます。民間手法に基づく、バランスシートにより健全財政を確保することと独自の収入を創出する方策の検討を要望しました。

【まちづくりについて】財政厳しい折、大船や深沢のまちづくりは民間の力を誘導すべきであると主張し続けてきました。大船駅東口再開発事業は、平成十五年工事を着工をめぐりしてありますが、地権者の合意、市民の要望を取り入れた機能や昨今の経済不況を勘案すると計画どおり進むか不安です。

【介護保険と福祉について】介護保険では、特に利用者の立場から、かまくら地域介護支援機構におけるサービス苦情相談室の充実強化を引き続き要望しました。また、介護サービスの基盤としての施設の早急な整備が必要です。介護サービス利用限度額に対する利用率が平均で三十七%となっている中、利用率が低いメニューについての改善などについて、今後より良い介護保険制度となるように検討を要望しました。更に、福祉政策の実現には多くの財源が必要となり、財政状況が苦しいとの理由で、あまり削減すべきではないと主張しました。

【環境自治体の徹底】ごみの全量再資源化を評価するとともに、ごみ収集車両の排ガス対策としてのディーゼル微粒子除去装置の取り付けなどの低公害車の普及策に一定の前進がありますが、クリーンセンターのダイオキシン対策などきめ細かな施策の展開と平成十四年までにこみ半減化という至上命題の達成に全力を尽くすよう引き続き要

望みました。緑地保全では、常盤山については緑地保全補助事業の制度を活用して平成十三年度から五年間の目標の中で、計画的に緑地の買収を行う方向性が示されたものの、広町・台峯の緑地保全に対するその現実的保全策と具体的計画を示すことを要望しました。

【情報化について】鎌倉から全国への情報発信が可能なIT機器センター構想の策定を要望するとともに、IT機器センターとして学校の余裕教室の活用も提言しました。また、全庁的なITの活用構想の策定とインフラ整備についても取り組むよう要望しました。小中学校に設置されているコンピューターの活用に関して、教える側への研修の充実にも努めるよう要望しました。

【教育について】ゆとりを教育に取り入れる中、生きる力を育むことが大事です。そのために、自然の中で生きる知恵を学ばせ、個性を伸ばす教育を行うことを要望するとともに、教育現場での公立学校離れの現象を指摘し、対応についての方策の検討に取り組むよう要望しました。

古屋 嘉廣 大村 貞雄 前野 正司 岡田 和則

新年度予算に対する評価と見解

公明党

「かまくら21男女共同参画プラン」を進めています。このプランの実効ある運用を求めました。女性が生活者の視点や発想で、新ビジネスを起す例が増えています。こうした女性の起業家に対して、情報提供や公的融資等の創業支援策を要望しました。

公明党は、二〇〇一年度鎌倉市一般会計予算並びに提案されましたすべての議案に賛成しました。以下、その基本的見解と理由について、次のとおり述べます。

【基本的見解】新たな世紀の幕開けという歴史の節目に当たって、今こそ二十一世紀を真に活力のある安心で安全な社会を築いていくことが問われています。公明党は、夢と希望と活力にあふれる鎌倉をめざします。市財政が危機的な状況にあることは言うまでもありませんが、財政状況が厳しいからといって、今日の時代・社会を最も反映している少子・高齢福祉対策が後退することはあってはなりません。

【行財政改革について】みぞうの財政危機を理由に、福祉をはじめとした施策の見直しが進められてきた中で、これらの後退に歯止めが掛けられたのは、公明党の行財政改革を進める粘り強い闘いがあったからこそです。さまざまな施策の展開による鎌倉再生には、財源確保が課題です。

【緑の保全について】市長の公約である広町等の全面保全に向けては、緑地保全基金への積み立てが重要な位置づけとなっております。緑地保全基金の積立目標がないと保全が図れません。政策決定した三大緑地の保全について、財政計画の策定を主張しました。

【電子自治体の構築について】電子自治体は、行政事務の簡素・効率化、市民サービスの向上及び地域産業の活性化等を図る上で、有効な手段です。電子自治体の構築を進めていくための情報基盤の整備と、国・県、また他市の状況を参考にし、最新の技術動向も見据えながら、電子自治体の構築に向けて積極的な取り組みを行うよう提言しました。

【仕事・家庭の両立と男女共同参画】女性の社会参加が進む中で、市では、点や発想で、新ビジネスを起す例が増えています。こうした女性の起業家に対して、情報提供や公的融資等の創業支援策を要望しました。また、育児や介護をしながら、引き続き働くことができるファミリーサポートセンターの設置を要望しました。

【医療費助成拡大など子育て支援】少子化対策は我が国の発展にとって重要な課題であり、子育てへの総合的な支援策が望まれています。我が党の提案で実現した乳幼児医療費助成制度を就学前の児童までに拡大すること、また、アレルギー性疾患の総合的な対策についても主張しました。更に、安心して働ける環境づくりのために、低年齢児保育、延長保育、一時保育など、多様な保育サービスの充実を求めました。

【ごみ対策について】ごみ半減計画の目標値三万五千トンの達成は、平成十二年度の焼却量が、今年一月までの実績からみて前年度並みと推測されることから、難しい状況にあります。ごみ半減計画の最終年度である平成十四年度に向けては、今までの以上に分別についての啓発と生ごみの減量策として、生ごみ処理容器の普及と事業系生ごみの分別処理の取り組みを要望しました。

【コンピュター教育について】小中学校のコンピュター導入については、学校別の導入基本計画の策定と国の整備方針（ミレニアムプロジェクト）に沿って平成十七年度までに整備するよう強く提言しました。また、家に閉じこもりがちで不登校の生徒にインターネットを活用した学校の不登校対策への取り組みを求めました。

野島 吉郎 藤田 紀子 福岡 健二

新年度予算に対する評価と見解

ネットワーカー・鎌倉

【子育てしやすい】社会状況の変化、すなわち、核家族化の進行や、子どもの数の減少、更に、保

神奈川ネットワーク運動・鎌倉は、平成十三年度一般会計予算外議案に対し、福祉・ごみ問題を優先させた予算であることなどを評価し、賛成しました。二十一世紀最初の予算審議に当たり、豊かな福祉社会をつくるべく、引き続き地域社会での市民の出番を増やすことが必要であり、税金で賄う「公」の領域と民間に任せる「私」の領域に加え、非営利の市民事業や市民活動団体などNPOの「共」の領域を広げていくことで心豊かなまちづくりをすべきことを指摘するとともに、以下の点について、特に要望しました。

【高齢者・障害者にやさしいまち】昨年四月に介護保険制度が始まりました。介護保険制度を使い勝手の良いものにするためには、サービスのメニューを豊富にすることが必要です。特に在宅福祉を支える施設であるデイサービスは、まだまだ足りず地域的な偏りも目立ちます。岩瀬中学校区では、今泉の市営住宅用地を活用して福祉施設を、という方針はあるものの市営住宅の計画が財政的な理由や地元との協議の中で定まらないまま、デイサービスや高齢者福祉施設については、ずっと待たされている形になっています。土地利用計画を策定し、地域住民の声も取り入れていく形で、早期に協議を進めていくよう要望しました。

【安全な給食を適正なコストで】給食のコストは一食当たり八百九十五円（一九九八年）で、そのうち、人件費が六百十三円、六十八%を占めています。子どもが学校で給食を食べている立場であれば、安全でおいしい給食というのはあたりまえの要望です。一方で、納税者の立場で言えば、削減できるコストは削減すべきというのも当然で、この二つの立場を両立させる議論が必要です。

【ごみ半減に向けて】ごみ半減計画実現のめざすは、まんべんなく減量をめざすのではなく、生ごみや事業系ごみなど高い効果の得られる施策に重点的に取り組むことです。あわせて、ごみ処理コストの適正負担制度の検討や、ごみ収集車の三人乗車を二人乗車に移行させることも必要と要望しました。

また、ごみ出しに苦労されている高齢者や障害者への配慮は欠かせません。職員配置の見直し等により、ごみや資源物の運び出しの支援を検討・実施すべきです。更に、災害時の弱者対策を要望しました。災害時に弱者となる可能性の高い人々については、緊急時をシミュレーションしての救急対策を講じておく必要があります。独居の高齢者や障害者、昼間に高齢者や障害者だけになる世帯などについての状況の把握や、地域の中に点在する小規模施設や作業所、小規模保育園などの防災対策について促しました。

また、鎌倉市においては、環境と身体に安全な洗剤をというところで、給食現場では石けん使用が原則ですが、一部（食器洗浄器のノズルの洗浄など）で合成洗剤を使っていることが質疑の中で明らかになりました。強く是正を求めました。

神奈川ネットワーク運動・鎌倉 山下 玲子 仙田みどり 前田 陽子